

取組名	シェイクアウト訓練を取り入れた避難訓練（地震）		
特徴	○ 事前に期日を知らせない避難訓練 ○ シェイクアウト訓練に基づいた安全行動 ○ 自治会、保護者の訓練参加		
学校名	県立下関南総合支援学校	期日	平成30年9月18日（火）

1 ねらい

- 本校敷地内が土砂災害特別警戒区域に指定されていること、また、本校体育館が下関市指定避難所に指定されていることから、地域の方に避難場所等の確認をしていただき、非常時に避難を円滑に行えるようにする。
- 幼児児童生徒の実態によって安全な避難及び対応をして、幼児児童生徒の安全確保方策、教職員の役割分担や組織活動の推進を図る。

2 概要

(1) 事前に期日を知らせない避難訓練の流れ

- ・シェイクアウト訓練の音源を校内放送で流す
- ・音を聞いたら授業場所で頭部を保護する（Drop, Cover, Hold on）
- ・地震の音（揺れ）が止まったら、ヘルメットを装着して落下物に注意して避難（ヘルメットがない場合はカバンなどで頭を保護する）
- ・第一次避難場所（運動場中央）に集合する。人員点呼し主事に伝える
- ・運動場が危険という対策本部の指示で第二次避難場所（体育館）に移動し、全校集会の隊形に並ぶ
- ・担任が保護者に幼児児童生徒を引き渡したという想定で主事に報告し、引き渡し確認証一覧表にチェックをしてもらう
- ・自治会長からの講評
- ・校長の講評

(2) 避難時におけるヘルメットの着用

- ・安全行動を行い、揺れのおさまりを確認した後、教室に保管してあるヘルメットを装着して避難する

(3) 自治会、保護者の訓練参加

- ・自治会、保護者に事前に訓練の日時を知らせ、幼児児童生徒と一緒に実際の訓練に参加する



3 成果と今後の課題等

事前に日時等を知らせない避難訓練を幼児児童生徒の実態に応じて実施した。また、本年度からシェイクアウト訓練の音源を流し、音声ガイダンスに基づいて安全行動（三つの動作）をとり、その後、教室内に保管してあるヘルメットを装着して、避難訓練を行った。

訓練に関しては、音声ガイダンスに従いながら、教員の声かけにより三つの安全行動をとり、ヘルメットを装着して避難をすることができた。避難経路を事前に確認していたこともあり、落ち着いて、安全に避難をすることができた。

また、本年度の新たな試みとして、自治会・保護者の方々も訓練に参加して、実際の訓練の様子を確認してもらうことができた。訓練後は、本校に備蓄してある物資について紹介することができた。自治会や保護者から訓練内容や災害時における準備について一定の評価をしていただいた。

今後の課題としては、ヘルメットは全校幼児児童生徒教員分の数を各教室に保管してあるが、教室以外の場所で災害が起こった時に、どのような対応をするかということが挙げられた。ヘルメットがない場合でも、カバンや身近にある物を利用して、頭部を覆いながら安全に避難するよう危機管理マニュアルに明記し、対応の確認を定着させていきたい。